

機関番号：25403

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19530457

研究課題名（和文）人権の安保問題化：北朝鮮からの脱北者に対する中国、韓国、米国の人権政策の比較分析

研究課題名（英文）Securitization of Human Rights : A Comparative Study of North Korean Refugee Policies of China, Korea, and the U.S.

研究代表者 金 美景 (Kim Mikyoung)

広島市立大学・広島平和研究所・准教授

研究者番号：50423968

研究成果の概要（和文）：今まで 雑誌論文 計 7 件（単独）、図書計 2 件（単独）の出版や 8 件の学会発表（単独）がある。

研究成果の概要（英文）：I have published 7 articles, presented 16 papers and one book chapter. One single-authored book is forthcoming in 2012.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会学、国際政治学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：人権、安保問題化、脱北者

## 1. 研究開始当初の背景

第2次世界大戦後、国際社会において非伝統的な安保問題(例:人権、拉致、不法難民、歴史再検討、環境破壊、麻薬密売など)が「安保イシュー化」(「securitization」 of non-traditional security issues)される傾向を見せている。特に東北アジアの場合、各国が国際化、民主化され(中国、韓国の場合)、また後期産業化社会へと転移しながら(日本の場合)、このような現象が著しく現われている。中国と韓国の間における重要な非伝統的な安保問題とは、北朝鮮の脱北者たちに対する法的定義と彼らの処遇に係わる人権イシ

ューである。日本の場合は1970年代に北朝鮮によって拉致された日本人たちとその家族に対する人権問題が重要な「人間の安全保障(human security)」の問題として登場した。また、アメリカの場合は「道徳的透明性(moral clarity)」を国際関係の重要な哲学的基盤とする現ブッシュ政府の北朝鮮人権の安保問題化が注目され、これらの問題を取り扱っている従来の研究の大部分は、問題と現状の叙述に止まっており、その体系的な理論化の努力が切実に必要な状況である。従って、本研究は、北朝鮮脱北者らにそれぞれ異なる

法的地位を与えて(中国は経済難民、アメリカは政治難民、韓国は北朝鮮離脱住民として定義している)、それぞれの政策(中国は放置と抑圧手段の同時使用、韓国は積極的収容と支援策、アメリカは象徴的収容策)を実施している三国を対象に、その国の政策が登場した国内的、国際的要因の相互作用を分析して理論化することにその目的がある。

## 2. 研究の目的

2006年10月9日、北朝鮮の核実験以後、国際社会の金正日政権に対する圧力が高まっている。この状況の中、今後のシナリオの一つとして台頭しているのが北朝鮮政権の崩壊である。このシナリオが呼び起こす大きい憂慮の一つはおびただしい数の北朝鮮難民の中国と韓国への移動である。そのなか、2004年北朝鮮人権法発効以後、少数人であるが、北朝鮮人に難民の地位を付与し始めたアメリカを含んだ3国の人権政策が重要なテーマとして浮び上がっている。1995年に約3百万人の餓死者が生まれたと推定されているが、その原因となった北朝鮮の食糧不足事情は改善されないうまま続いている。一方、韓国の経済力に対する情報が中国国境域にある北朝鮮の北部中心に広がり、脱北して韓国に定着する北朝鮮人の数が毎年幾何級数的に増加している(韓国統一省の2006年統計：96年86人、01年583人、05年1,383人)。しかしもっと多くの北脱者たちが中国の各地で身を隠していると推定されており(中国政府統計：10,000人、韓国政府統計：30,000人、国際NGO統計：300,000人)、さらに現在経済制裁措置等で窮地に追い込まれている北朝鮮の経済状況がより悪化する場合、北脱出者の数はもっと増えると予想される。特に脱北者全体の60パーセントを占めている北朝鮮女性たちに対する中国での人身売買、不法強制結婚などの人権侵害はとて深刻な状況と見られる。この研究は米国、中国、韓国の三国の北朝鮮脱北者に対する人権政策を比較、分析すると同時に、性的に特殊な問題として現われている難民女性たちの人権問題も同時に研究しようとするものである。

## 3. 研究の方法

本研究は伝統的には安保 이슈とされてこなかった問題の安保問題化をアメリカ、中国、韓国の北朝鮮脱北者に対する人権政策をケース研究として分析する。このために本研究は文献研究のほかにも深層インタビュー

ーを中心とするフィールド調査を並行する。

## 4. 研究成果

今まで 雑誌論文 計7件(単独)、図書計2件(単独)の出版や8件の学会発表(単独)がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件, 単独)

①2010. "North Korean Human Rights Policies of China and Japan: Supremacy of Domestic Priorities over International Norms," *North Korean Review*, Vol. 6, No. (Spring), 6-19. (査読有)

②2009. "North Korea's Place in the U.S. Presidency," *North Korean Review*, Vol. 5, No. 2 (Fall), Durham, NC: McFarland & Company, 57-71. (査読有)

③2009. "South Korean Construction of North Korean Identity: Victimization, Romanticization and Vilification," *Korea Yearbook: Politics, Economy, Society*, Leiden and Boston: Brill, pp. 257-75. (査読有)

④2009. "Waiting for Japan's Barack Obama," *Global Asia*, Vol. 4, No.2, pp. 72-76. [http://www.globalasia.org/CurrentIssues/V4N2\\_2009/Mikyung\\_Kim.html?w=mikyung+kim](http://www.globalasia.org/CurrentIssues/V4N2_2009/Mikyung_Kim.html?w=mikyung+kim). (査読有)

⑤2009. "Social Construction of Power, Identity and Geography: The Voices from Korea, India and Tibet," *International Studies Review*, Vol. 11, No. 4: 749-54.

⑥2008. “The Processes of Japan’s North Korean Identity Construction: A Discourse Analysis of Military Threats and Human Rights,” *The Journal of National Strategic Security*, 8 (4): 137-8 (査読有)

⑦2007. “Ethos and Contingencies: A Comparative Analysis of the Clinton and Bush Administrations’ North Korea Policy,” *Korea and World Affairs*, Vol. 31, No. 2 (Summer), pp. 79-91. (査読有)

[学会発表] (計14件、単独)

①“South Korean Construction of North Korean Identity: Victimization, Romanticization and Vilification,” International Studies Association Annual Meetings, New Orleans, USA, February 20, 2010.

②“Citizenship and Human Rights Debates in Japan: Zainichi Koreans,” International Conference on Sociology of Human Rights, Seoul National University, November 4-6, 2009.

③“North Korean Refugees and Human Rights Debates,” International Conference of Asian Scholars, Daejeon City, Korea, August 6-8, 2009.

④ “North Korea’s Place in the U.S. Presidency: Ethos and Moral Judgments,” World Congress of Political Science, Santiago, Chile, July 12-15, 2009.

⑤“Social Construction of Northern Women in South Korea,” at the International Conference organized by the Hanns Seidel Foundation and the Institute of Peace and Unification Affairs of Seoul National University, Seoul, Korea, May 28, 2009.

⑥ “North Korean Missile Launch and Japanese Reactions,” National Strategy Institute, Seoul, Korea, May 13, 2009.

⑦ “The Japanese Human Rights Policy Towards North Korea,” Annual International Symposium, National Commission on Human Rights, Seoul, Korea, October 29-30, 2008.

⑧“Political Construction of Human Rights: North Korean Refugees in China,” American Political Science Association, Chicago, IL., USA, September 1, 2007.

[図書] (計2件、単独)

① 2012. *North Korean Human Rights Debates Refugees in East Asia*. New York and Westport, CN: Praeger Publishers, forthcoming. (単著)

② 2008. “North Korean Refugees and Human Rights Debates in China,” in *Rise of China: America and Asia Respond*, Kevin J. Cooney and Yoichiro Sato (eds.) London and New York: Routledge, pp. 213-31. (単編書)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 美景 (Kim Mikyoung)

広島市立大学・広島平和研究所・准教授

研究者番号：50423968

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：